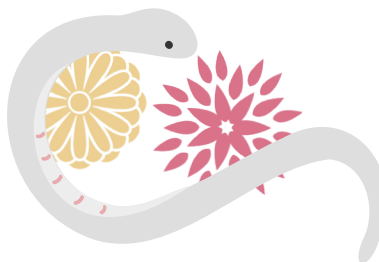




三重TLO技術情報クラブ会報

CONTENTS

- 1 御挨拶／三重大学 理事・副学長（研究・情報担当）吉岡 基
株三重ティーエルオー 代表取締役社長 加藤貴也
- 2 三重大学研究室紹介
- 3 三重TLO会員企業紹介
- 4 三重大学「鯨類研究センター」
- 5 特許情報
- 6 生物資源学研究科オープンラボ
- 7 活動報告・営業報告
- 8 ご案内



2025



三重大学 理事・副学長
（研究・情報担当）

吉岡 基

2023年4月より三重大学の理事（研究・情報担当）・副学長を務めております。

2023年3月まで生物資源学研究科教授として、鯨類の生理・生態等の教育研究に関わり、2016年には生物資源学研究科内に鯨類研究センターを設置し、三重大学の特色ある研究となるよう、さまざまな手法を駆使して、海の哺乳類たちの研究を行って参りました。

現在は研究・情報担当の理事・副学長として、三重大学の活動指針である「三重大学ビジョン2030」を完遂すべく活動しています。三重大学にとって最も大切な基本理念は、「国際社会との繋がりを深め、地域社会との連携を強化しながら、様々な地域・分野で活躍できる人材育成と、世界トップレベル及び独創的な研究を遂行する」ことです。地域社会との共創の場として、また地域創生のハブ機能を持つ高等教育機関として発展していくことが重要になります。また、研究領域においては、世界と伍するナンバーワン研究、地域に根差したオンリーワン研究を中心に、カーボンニュートラルへの転換を図るなど、地域イノベーションに繋がる研究を展開し、それらの成果を社会実装することで、地域共創、新しい地域づくりを先導する役割を担っています。

もう一つ特筆すべき三重大学の取組に「戦略的リサーチコア」があります。キャッチフレーズを「社会課題の数だけ研究テーマがある」とし、社会共創を支える多様で独創的な研究を推進しています。ここには卓越した先端研究グループを支援することによって優れた研究成果をあげることが目的とした2つの『卓越型リサーチセンター』（エネルギー材料統合研究センターおよび半導体の結晶科学とデバイス創製センター）と、「産学官が共創して地域課題の解決を目指す研究」「地域に根差したオンリーワン研究」の研究グループを支援することで優れた研究成果をあげることが目的とした13の『重点リサーチセンター』および『重点ユニット』を有しています（2024年4月時点）。組織や研究分野の枠にとらわれない研究グループがこれまでにない研究成果や新技術を生み出し、新産業創出など地域に貢献します。

さて、三重大学と企業様との連携に関わる活動を2002年から行っているのが(株)三重ティーエルオーです。以前、私が理事・副学長（研究・情報担当）兼 社会連携研究センター長として社会連携を担当していた時には、社外取締役を兼任し活動を支援していました（2013年6月～2015年6月）。その頃と同じように、二十数年変わらずに三重大学の技術相談や共同研究の窓口、研究成果の実用化への移転支援などの活動を続けています。これからも継続的に発展的に、三重大学と共に皆様のお役に立てるものと思います。

今後とも、三重大学および(株)三重ティーエルオーの活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



株三重ティーエルオー
代表取締役社長

加藤 貴也

会員企業・団体の皆様、個人・団体株主様には平素より大変お世話になっております。

コロナ感染症の及ぼした影響が、その後社会生活の考え方から研究開発への取組み方などを変化させて参りました。2025年を迎え、新しい価値観を基にした研究開発、技術革新を目指した支援のあり方を考え、実行せねばなりません。

昨年はじめに石川県能登半島地震が発生、8月には南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されました。さらには記録的な豪雨や暑さなど、様々な自然災害に見舞われ、防災・減災を強く意識する年となりました。また海外においても、ウクライナや中東における情勢が好転する気配はあまり感じられず、小さな子供等にも多くの犠牲が出ているとの報道に心が痛みますが、我が国の市民生活、企業活動においても穀物、エネルギー価格、人件費の高騰や人材不足等、様々な影響が継続しています。

このような社会環境の変化に対応を迫られる企業・団体様に対して、産学官連携活動が今後果たす役割をしっかりと把握して、これからの新たな価値創造のために皆様と共に活動をさせていただきます。

会員企業・団体様には、ホームページやメールなどにより、各々の会員様の状況にマッチした技術シーズ情報や、就職人材関連情報、研究を紹介する講演会・見学会の開催情報などを適時優先的に提供しています。ご活用いただければ幸いです。

（当社ホームページに設立経緯を追加しました：<https://www.mie-tlo.co.jp/about-tlo/ourstory/>）

三重大学 研究室紹介

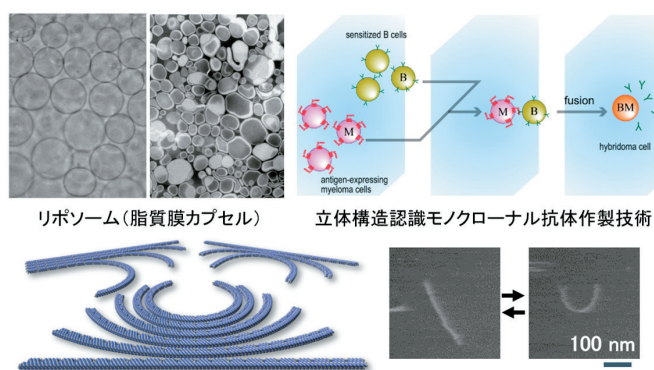
大学院工学研究科応用化学専攻 分子生物工学研究室 教授／湊元 幹太

当研究室は、応用化学専攻（旧分子素材工学専攻）に属しており、化学と生物の融合をベースとした、メディカル・ライフサイエンスに有益な物質・材料創成をめざしています。

構成員は、教員が私と鈴木勇輝准教授、事務の方、そして、学生が大学院生と卒業研究生（大学4年生）を合わせて例年20名程度です。研究室では、日常的にDNA・タンパク質・脂質の生物化学実験、培養細胞や実験動物の取扱い、顕微鏡・共焦点・電顕・AFMを含む各種顕微鏡観察などを行っています。現在は、実際の細胞に学びながら、生体分子が織りなす、ナノ～マイクロメートルスケールの会合構造である、タンパク質液滴、脂質二分子膜（人工細胞膜）、DNAオリガミなどの新規形成法の開発、機能化による利用可能性の探索に取り組んでいます。生命は、柔軟性（例えば膜）と正確性（例えば核酸）の二刀流であり、その精妙さには驚くばかりです。それには（研鑽不足と重々承知なものの）全然近づけておりませんが、脂質膜の再構成、核酸ナノ構造の創出、細胞－細胞相互作用の抗体産生への応用、等に成功しています（写真図）。

研究室の歴史の中でこれまで培われてきた、リボソーム工学、遺伝子工学、抗体工学、ウイルス工学の知見を財産に、新たに核酸工学・DNAナノテクノロジーを取り入れることで、メディカル・バイオものづくりの学問である分子生物工学（Molecular Bioengineering）を展開し、三重大から新技術を発信していきたいと考えています。

※AFM…原子間力顕微鏡



構造DNAナノテクノロジー:分子信号やイオン環境に応答して変形するナノデバイス

大学院生物資源学研究科資源循環学専攻 園芸植物機能学研究室 教授／名田 和義

本研究室では、厳しい栽培環境に強い野菜品種を作出するための基礎的な研究や比較的穏やかなストレス環境を利用した野菜類の品質向上栽培技術の開発に取り組んでいます。

● 野菜類の高温ストレスに対する反応性と耐性機構の解明

野菜をはじめとする植物の生理機能のうち、光合成機能が特に高温に弱いとされています。高温耐性品種の高温ストレスに対する光合成反応性から強化すべき生理機能が明らかとなり、光合成色素の一種であるキサントフィル類の機能が高まると、高温ストレスに耐えることができることが分かってきました。このことは、ナス、トウガラシ属、キュウリ、ホウレンソウなど多くの野菜類で共通の反応であり、野菜類の高温耐性品種の選抜に応用できると考えております。

● カリウム高濃度施用による野菜類の品質向上

カリウムは植物にとって重要な肥料元素の一つですが、カリウムを通常より多く施用することで、葉菜類のβカロテン含量が高まり、トマト果実のリコペン含量が高まることが明らかとなりました。特に、トマト果実では糖度も同時に高まるため、カリウム高濃度施用による高リコペン高糖度トマトの水耕栽培技術として実用化に取り組んでいます。



キュウリ葉への短期的な
高温ストレス処理方法の様子



水耕栽培トマトの
カリウム高濃度施用処理の様子

三重 TLO 会員企業紹介

多岐にわたる分野で自動化を支える産業機械メーカー

村田機械株式会社

村田機械は1935年創業のFA・OA機器メーカー。繊維機械、物流システム、ファクトリーオートメーション、クリーンルーム内FAシステム、工作機械、板金加工機などの産業機械に加え、デジタル複合機をはじめとする情報機器や製造業向け生産管理システムなど、多岐にわたり事業展開しています。

中でも、成長著しい半導体産業分野では、クリーンFA事業部が半導体工場内の自動搬送システムを提供しています。半導体工場の自動搬送システムは、人体に例えると血管の役割を果たす工場内物流を担い、社会に欠かせない半導体の機能向上・安定供給のため高い品質と安定性が求められています。当社はこの分野で30年を超えるノウハウを持ち、自動搬送システムにおいてトップシェアを得ています。システムの核となるOHT（Overhead Hoist Transport：天井走行式無人搬送車）を始め、ハードウェア・ソフトウェアの開発・設計から、製造・据付・アフターサービスまで一貫して提供し、世界中の半導体メーカーをトータルにサポートしています。

クリーンFAの主力拠点の一つが、三重県にある伊勢事業所。技術部門と製造工場があり、OHTや無人搬送車（AGV）、保管庫（ストッカー）などの主要機器を生産しています。伊勢市から災害時の避難場所にも指定されており、地域と深く関わりながら、最先端の技術を伊勢から世界へと発信する拠点でありたいと願っています。

- **所在地** 本社：京都市伏見区竹田向代町136 伊勢事業所：三重県伊勢市下野町600-10
- **電話番号** 0596-36-1260
- **問い合わせ先メールアドレス** ise-personnel@syd.muratec.co.jp
- **担当者** 伊勢業務部 森口
- **ホームページアドレス** <https://www.muratec.jp/>



半導体工場向け搬送システム



伊勢事業所



ホームページ

創業110年を超える農作業機の総合メーカー

株式会社タカキタ

当社は1912年の創業以来、農作業機の総合メーカーとして農業の近代化に力を尽くしてまいりました。自然資源や地球が持つ豊かな恵みを、全ての人々に届けるこの理念のもと、革新的な技術と製品の開発に取り組んでいます。

今から100年以上前に、牛に引かせる「スキ」を作ったのがタカキタの原点。それ以来一貫して、農業の現場を見つめ、より効率よく、より品質の高い農産物を作り出すにはどうしたらいいかを追求し続けてきました。

現在は、牧草やトウモロコシ、稲わらなど粗飼料の収穫や梱包などを行う「ロールベアラ」や「ラップマシーン」、給餌作業機といった畜産酪農現場で活躍する作業機、肥料や土壌改良剤の散布を担う「コンポキャスト」などの土づくり作業機、雪深い地域で活躍する除雪作業機など、農業現場での作業効率改善に寄与する多様な農業機械づくりを進めています。

近年では、次世代育成支援対策推進法に基づき、子育てサポートをより高い水準で取り組んだ結果、2024年7月に厚生労働大臣より「プラチナくるみん」認定及び「くるみん」認定の2回目を受けております。これから一層多様な働き方に対する企業の対応が求められる中、従業員に対する様々な支援策を拡充し、子育てと仕事の両立支援はもとよりワークライフバランスの推進に取り組み、誰もが安心して生きがいをもって柔軟な働き方を選べる職場環境の整備を推進してまいります。

※くるみんとは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けた証。

- **所在地** 三重県名張市夏見2828
- **電話番号** 0595-63-3111
- **問い合わせ先メールアドレス** saiyo@takakita-net.co.jp
- **担当者** 管理本部総務部 中坊
- **ホームページアドレス** <https://www.takakita-net.co.jp>



ホームページ

三重大学 『鯨類研究センター』

三重大学には、社会と共に発展することを目指した研究基盤推進機構があります。本機構は、共同利用機器を活用した研究開発や人材育成の支援を行い、分野横断的・独創的な先端研究等を推進する施設として、三重大学の研究活動を支援しています。

今回は、本機構のひとつである「鯨類研究センター」について紹介します。

研究基盤推進機構

先端科学研究支援センター

半導体・デジタル未来創造センター

鯨類研究センター

国際忍者研究センター

戦略的リサーチコア

三重大学 研究基盤推進機構

●鯨類研究センターの成り立ち

2015年に世界動物園水族館協会（WAZA）から日本動物園水族館協会（JAZA）が会員停止勧告を受け、これまで行われていた野生のイルカを捕獲し水族館へ供給することが全国的にできなくなりました。この出来事をきっかけに鯨類の飼育個体をどのようにして安定確保していくかが大きな課題となり、繁殖や飼育に関する研究への注目が高まったことで2016年に本学大学院生物資源学研究科内に鯨類研究センターが設置されました。

●研究内容

①持続的飼育 ②生態解明の2つの柱で研究をしています。

①持続的な飼育を目指し、飼育下繁殖や飼育生活の質向上に関する研究を行っています。

人工授精に関する研究や、オスとメスの繁殖に関する研究を進めており、例えばホルモンの変動を観測し、交配する適切なタイミングを知る研究などを実施しています。また、飼育生活の質の向上に関する研究では、ストレスホルモンの測定や、行動観察による種や個体ごとの性格、飼育環境の馴化などについての調査を行っています。さらに、子育ての方法についても調査を行い、飼育下鯨類の生活の質（QoL）を向上させるための研究を進めています。

②生態解明では、野生の鯨類に関して、新しい技術を取り入れて生態研究を進めています。

具体的には、ドローンを用いた空撮、3Dカメラを用いた非接触での体長推定技術の確立、糞から採取したDNAのエピジェネティック（DNA配列を変えずに遺伝子の働きを制御する仕組み）な変化から個体ごとの年齢の推定などの技術です。近年は、海水浴場でイルカがヒトに噛みつくなど、野生鯨類とヒトとの距離の問題がニュースでも取り上げられています。

このような場合陸上では、電気柵を用いるなどして、動物とヒトとの距離を保つ方法が用いられていますが、海洋では陸上に比べこういった方法が進んでいません。ここでは、鯨類の行動やコミュニケーション方法などの生態を明らかにすることで、ヒトと鯨類の適切な距離の保ち方についても研究を進めています。

このように当センターでは、水族館等において飼育個体を持続的に飼育するための研究や、野生鯨類の資源としての利用と保全のための研究を生理学、生態学、動物行動学、生物音響学、分子生物学、生化学等の手法を駆使して、様々な機関や企業と連携して調査・研究を進めています。

また、研究推進のための研究者間の交流や学生の学内外での教育プログラムの開発にも取り組んでいます。鯨類の研究や交流、支援に興味をお持ちの方はいつでもお問い合わせください。



「伊勢湾のスナメリ。撮影：八木原風助教（鯨類研究室）」
ドローンを使用して撮影したスナメリの親子の写真です。ドローンを使用することで、野生のイルカへのストレスを最小限に抑えた撮影が可能です。また一度に広範囲を見ることができるため、効率よくイルカを見つけることが可能です。



「イルカの精子を保存している液体窒素タンクと船坂准教授。撮影：三重大学広報室」液体窒素（-196℃）を使用して超低温で保存することで、長期間安定してイルカの精子を保存することができます。

技術指導・共同研究などのご相談は

（株）三重ティーエルオーのホームページから申し込みできます。

<https://www.mie-tlo.co.jp>（右のQRコード読み取りでもアクセスできます。）



三重 TLO の技術移転および特許情報

01 実施許諾可能な特許出願の概要

2023 年 4 月～ 2024 年 3 月の三重大学の特許出願件数は表（知 1）のとおりです。

（基礎出願だけでなく、国内優先権主張出願、PCT 出願※および自国指定 PCT 展開、分割出願を含みます）

表（知 1）三重大学の特許出願件数

分野	単独出願	共同出願	合計
医薬品	0	13	13
医療関連	4	10	14
バイオ	0	0	0
食品	0	0	0
環境・エネルギー	0	0	0
福祉機器	0	1	1
情報	0	3	3
建築・土木	0	1	1
材料	0	1	1
電気・機械	0	3	3
電子・デバイス	0	2	2
総数	4	34	38

2023 年度の特許出願件数は、三重大学単独の出願（単独出願）が 4 件、企業様及び他大学様等との共同での出願（共同出願）が 34 件で総数 38 件となりました。例年の出願件数は 40～50 件程度となっておりますが、今年度はさらに減少したかたちとなりました。出願件数の分野別割合は、医薬品、医療関連、バイオの医学系 3 分野合計が 71%、材料、電気・機械、電子デバイスの工学系 3 分野の合計が 16%、情報のみで 8%、その他 5% となりました。

※PCT 出願＝特許協力条約（PCT:Patent Cooperation Treaty）に基づく国際出願。ひとつの出願願書を条約に従って提出することによって、PCT 加盟国（158 か国/2024 年 11 月現在）であるすべての国に同時に出願したと同じ効果を与える出願制度。

「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」に基づく記載事項

(1) 実施料等の収益の研究者及び大学への配分

研究者への配分

- ①実施料等の収益から出願、審査請求、維持等に要した費用を控除した残額の十分の五を配分する。
- ②配分は特許権等が消滅するまで継続する。

大学等への配分

実施料等の収益から出願、審査請求、維持等に要した費用を控除した残額の十分の四を配分する。

三重 TLO への配分

実施料等の収益から出願、審査請求等に要した費用を控除した残額の十分の一を配分する。

(2) 実施料等の収益の研究者及び大学等への還流の方法

- ①研究者へは個人に実施料として還流する。
- ②研究者が所属する大学等へは奨学寄付金、もしくはその大学等との協議に基づいて還流する。

(3) 実施料等の収益の研究者及び大学等への配分の実績（千円）

知的財産権の種類	実施料等収入	研究者への配分	大学等への配分	その他共有者等への配分	三重 TLO への配分
国内特許権等	37,843	18,642	14,914	0	4,287
外国特許権等	0	0	0	0	0
その他の知的財産権	5,629	2,469	2,186	0	974

02 実施許諾可能な特許出願の概要

表（知 1）で示した特許出願のうち、三重 TLO 会員の皆様へ実施許諾可能な出願公開前（国際公開など公開済み特許も含む）のもの 1 件について紹介いたします。実施許諾をご希望の場合は、担当者までご連絡ください。事前に契約条件等を協議させていただきます。

分類	発明の名称	発明の内容	主要図	活用が考えられる産業分野・商品等
医療関連	臓器被覆シートの製造方法、 臓器被覆シート、及び 病変部位同定方法、	体内に内視鏡を入れて臓器の一部を切除する手術を行う場合に病変位置の同定を行う技術。従来技術である CT ガイド下色素マーキング等は、患者及び医療者に対する放射線の曝露が問題となる他、色素が体内に吸収・拡散して、病変位置の同定がしづらい。本発明は肺の CT 撮影により得られたデータに基づいて、肺葉モデルを 3D プリンタにより作成後、PGA シートに転写して胸膜シートを作成、病変部位をマークし肺葉に被覆した胸膜シートのマークに基づいて病変部位を同定する。	 【図】(a) 肺葉の 3D データ、(b) 肺葉モデル、 (c) PGA シート、(d) 胸膜シート	内視鏡手術サポート用医療機器、病変部位同定ツール

【上記特許に関するお問い合わせは下記担当者までお願いいたします。】

技術移転部 上井 E-mail : mie-tlo@mie-tlo.co.jp Tel 059-231-9822 Fax 059-231-9829

大学院生物資源学研究所 オープンラボ

三重大学大学院生物資源学研究所オープンラボ 2024 「生物資源学のチカラで地域を豊かに！」が開催されました。

2024年9月27日13～17時に三重大学三翠ホールにて実施された本会は、農林水産・食品・バイオ・環境関連等の企業様や自治体等公的機関の方々に、生物資源学研究所の教員・学生が取り組んでいる研究活動の紹介と、「社会・地域貢献活動」のアピールを目的に例年開催されています（当社株三重ティーエルオーが協力しています）。

研究紹介では以下の教員からの発表がありました。

1. 森を豊かにする先端研究－地面の下から森を眺める－森林微生物学教育研究分野／松田陽介 教授
2. 田畑を豊かにする先端研究－土壌有機物の視点から－土壌圏システム学教育研究分野／渡邊晋生 教授
3. ヒトの暮らしを豊かにする先端研究－21世紀はゲノムの時代－分子細胞生物学教育研究分野／竹林慎一郎 教授
4. ヒトの心を豊かにする先端研究－イルカからヒトのことを眺める－鯨類学教育研究分野／森阪匡通 教授

続いて研究ショートプレゼンテーションで、ポスター展示の研究内容を1分間に纏めて学生の皆さんがテンポ良く紹介しました。

ポスター研究発表の中から、優秀ポスター賞に以下の4つの研究が選ばれました（括弧内は所属と指導教員）。

◎暗い森のなかで植物はどのように生きている？多様な植物を養う「菌根ネットワーク」

発表者：榮航太郎さん（森林微生物学：松田陽介 教授）

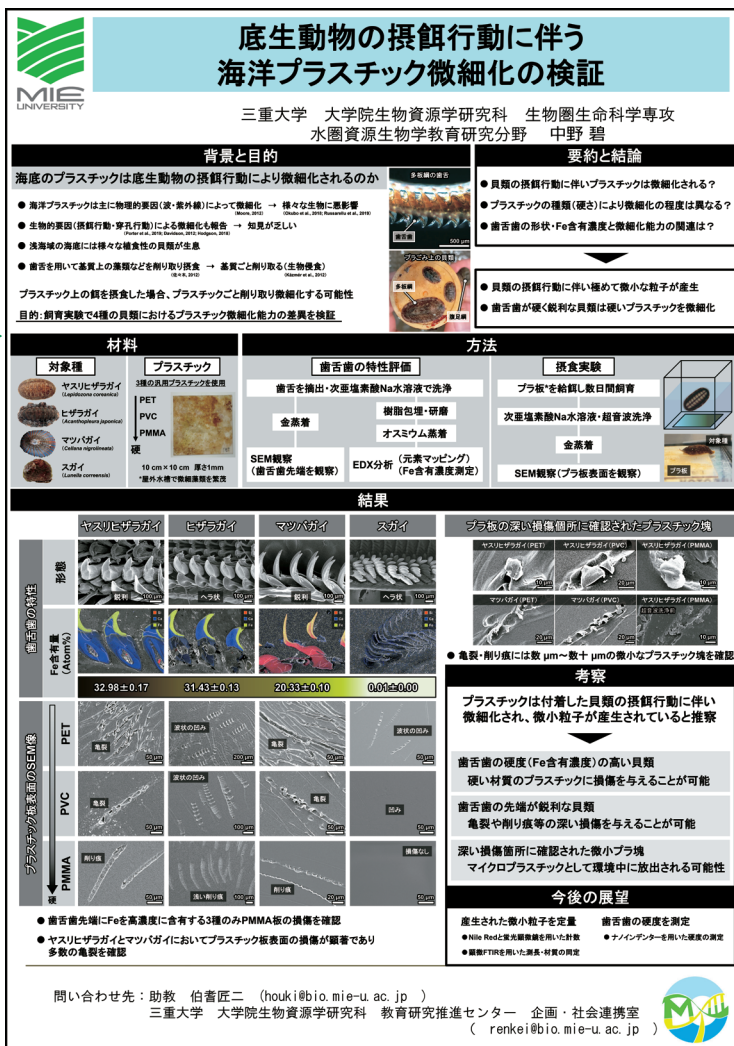
◎異なる酪農場の泌乳牛における糞中ムチンと糞便性状の関連
発表者：西川義将さん（草地・飼料生産学：近藤 誠 准教授）

◎糸状菌におけるバイオマス分解酵素生産制御に関する研究
発表者：藤下未来さん（微生物遺伝学：國武絵美 准教授）

◎底生動物の摂餌行動に伴う海洋プラスチック微細化の検証
発表者：中野碧さん（水圏資源生物学：伯耆匠二 助教）

右図は中野碧さんのポスター展示です。今、世界中で問題となっているマイクロプラスチックですが、貝類の摂餌行動によってもたらされる可能性が示されたことは大変興味深いです。また、普段考える機会が少ない分野・領域の研究方法に触れることができ、研究のおもしろさを感じられるポスター発表でした。

さて、生物資源学研究所をはじめ三重大学の各研究者が皆様（企業様、団体様、自治体様など）に向けて研究シーズを発信しています。皆様（多くは企業様）との共同研究や技術相談などを通して社会貢献を果たすことを理由としています。また皆様と協働して、研究助成や製品化等助成などの経済産業省や農林水産省事業への申請を行うことも推進しています。オープンラボなどのイベントに参加していただき、研究や研究者と接することで、お役に立つ事に出会えるかも知れません。次年度も予定されている生物資源学研究所オープンラボにぜひご参加ください。



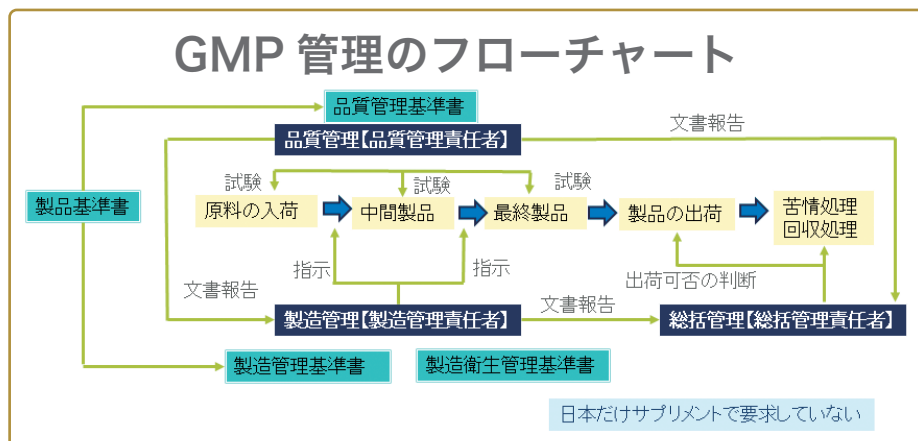
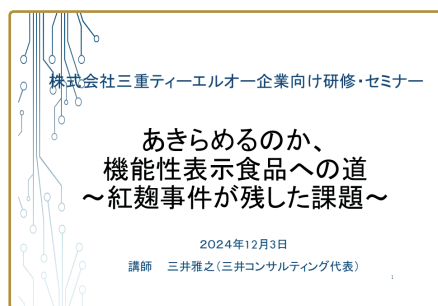
活動報告

企業向け研修・セミナー「あきらめるのか、機能性表示食品への道！紅麹事故が残した課題」を開催

2024年12月3日に標記のセミナーを開催いたしました。

本セミナーは機能性表示食品開発に長年携わってこられた三井 雅之氏（三井コンサルティング代表／当社専門家人材）を講師に迎え、2024年初めにマスコミを賑わせた「紅麹事故」を話題の中核に据え、保健機能食品制度の基礎・制度上の不備、当該事故発生に起因した法改正の概要まで幅広く解説したものです。消費者の健康被害として問題が露見した「紅麹事故」を深掘りしながら、保健機能食品制度を学び直す良い機会となりました。

当社では、企業様の課題解決に必要な技術・知識を持った専門家をご紹介する「専門家人材バンクサービス」事業を行っております。専門家や大学教員によるオンデマンドの個別研修・個別セミナーをご提案することも可能です。関心がございましたら、当社までお問合せ下さい。



第23期（2023年度）営業報告（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

1. 第23回定時株主総会開催報告

2024年6月19日、第23回定時株主総会が開催されました。委任状をご提出いただいた株主様を含め、ご出席いただきました株主様の有する議決権の数が、総議決権の過半数を満たしており、本会は有効に成立し、決議事項も原案通り、承認可決されましたことをご報告いたします。

2. 2024年度の事業運営について

使 命

- I 三重大と連携し、企業・団体・自治体への支援による技術／産業基盤の確立と向上に寄与する
- II 三重大の教育、研究、社会貢献を支援し、三重大の価値創造に寄与する
- ・上記の使命に基づき、三重大と協働し、大学の活動への協力・支援を実施します。会員企業・団体へのサポートを充実させるとともに、大学との連携活動、当社独自の活動の両輪を回し、三重大とともに地域活性に努めます。

三重TLOサポートメニュー

- サポート① 共同研究等の推進（大学等との連携が円滑に進むように支援します。）
- サポート② 研究支援事業等の受託（官公庁、地方自治体等の委託を受けて事業を遂行します。）
- サポート③ 大学等の設備を利用した共同研究の支援（大学等が保有する開放機器の円滑な使用を支援します。）
- サポート④ 技術移転（特許・成果有体物等）（大学等が保有する特許や成果有体物等の技術移転をスムーズに行えるように支援します。）
- サポート⑤ 研究室紹介・交流会（大学で行われている最新の研究内容を知り、研究の現場に触れる機会を提供しています。地域企業と大学間の共同研究等での連携拡大を目指しています。）
- サポート⑥ ひと・しごとマッチングサポート（三重大の卒業生をはじめとする既卒者を、当社会員をはじめとする企業・団体に紹介し、就業の支援を実施する有料職業紹介事業です。なお、本事業は三重大の現役生は対象としていません。）
- サポート⑦ 専門家人材バンクサービス（企業ニーズに応じた外部専門家による技術講習会・技術指導を提供します。）
- サポート⑧ 企業向け研修・セミナー（お客様のニーズに応じた専門家による研修・セミナーをオンライン・対面に提供します。）

3. 当社の現況（2024年11月1日現在）（2002年4月16日 文部科学大臣・経済産業大臣承認技術移転機関）

1. 株式の現況

(1) 発行済株式総数 260 株 (2) 株主数 7 名・団体、株式数 83 株 (3) 自己株式取得数 177 株

2. 取締役および監査役

代表取締役社長	加藤 貴也（三重大 学長補佐）
取締役事業推進部長	松井 純
取締役	酒井 俊典（三重大 理事・副学長）
取締役	飯田 和生（三重大 名誉教授）
監査役	東海 悟（㈱三十三総研 代表取締役社長）
監査役	梅澤 孝史（㈱百五銀行 公務部課長）

株式会社 三重ティーエルオー

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 番地 三重大内
Tel.059-231-9822 Fax.059-231-9829
E-mail : mie-tlo@mie-tlo.co.jp

2024 度 三重大学・三重 TLO 研究室見学会 & 交流会

2025年2月27日(木)に三重大学講堂（三翠ホール）において、2024年度三重大学研究室紹介・交流会を開催いたします。当日は招待講演として株式会社デンソー 先端技術研究所長 伊藤 みほ 様にご講演いただいた後、三重大学大学院工学研究科及び生物資源学研究科の研究室を見学していただきます。大学でどのような研究が行われているかを具体的に知る事のできるイベントとなっております。終了後は交流会も予定しております。詳細は当社ホームページ、三重TLO会員向けメールマガジンをご覧ください。ご参加お待ちしております。

2025年 **2月27日** **木**

場所

三重大学講堂（三翠ホール）
三重大学内 各研究室
（近鉄江戸橋駅から徒歩 15 分）

- 招待講演会 / 15:00 ～ 16:10（定員 150 名）
- 研究紹介・研究室見学会 / 16:30 ～ 17:35（定員 60 名）

参加無料

講演

株式会社 デンソー 先端技術研究所 所長 / 伊藤 みほ 様
「2035 年に向けたデンソーの先端研究」

研究紹介・研究室見学会

A コース

「モーションコントロール技術の開発」制御システム研究室（准教授 矢代大祐）
「脊椎等生体器官の力学的機能評価」生体システム工学研究室（教授 稲葉忠司 / 助教 馬場創太郎）

B コース

「大型風洞による垂直軸風車周囲の流れ計測」エネルギー環境工学研究室（准教授 鎌田泰成）

C コース

「農畜水産物の非破壊センシング技術開発」生産環境システム学研究室（准教授 鈴木哲仁）
「木材・木質材料の物理的特性評価と居住空間の環境評価」木質資源工学研究室（教授 中井毅尚）

D コース

「鯨類の繁殖や生態の研究成果」鯨類研究センター（教授 森阪匡通 / 准教授 船坂徳子）

- 交流会 / 17:45 ～ 19:15（定員 60 名・教員、学生参加）

申込みは右記 QR コードよりお申込みください

【リンク先】 <https://forms.gle/GgjS7nmXQwHpCtDn7>



伊勢志摩にある海洋・水産機関による 研究成果発表会

知ってほしい! 伊勢志摩の海に関わる研究を集めました。
皆様に分かりやすく紹介します。

日時 2025. **2.15.sat** 13:30-16:00
会場 鳥羽商工会議所「かもめホール」
対象 伊勢志摩地域の皆様

参加費無料

【要事前申込み】

中学生・高校生の
みなさんも ぜひきてね

申込み方法

→ 以下のいずれかの方法でお申し込みください。

- ① QRコード ② 当社ホームページよりお申込み <https://www.mie-tlo.co.jp>

